

今週（4月8日から4月12日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、積み期間の終盤に入ったものの、レート水準に変化は見られず、落ち着いた取引に終始する展開となった。当座預金残高は週を通して380兆円台後半で推移した。無担保コールO/N物は、積み最終日を目前に控えながらも、先週に引き続き各業態の調達意欲は限定的であった。週を通して地合いにほとんど変化が見られず、出会い水準は▲0.086～▲0.02%のレンジが中心となった。無担保コールの市場残高は、概ね7兆円台半ばから8兆円台前半で推移した。ターム物は、月末の10連休を意識した動きは特に見られず、月内物のショートタームで▲0.04～▲0.03%のレンジで散発的な出会いとなった。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは12日に2W物・15,000億円がオファーされ、1,884億円（期落ち額1,784億円）と札割れとなった。

●レポ市場

今週のO/N GCは投資家・業者共にビッドニーズが厚く見られたことで、レートを徐々に下げながら推移した。

週初8日はC/N▲0.10～▲0.09%の出会い。T/Nも同水準で▲0.10～▲0.09%の出会い。翌9日は短国・利付債の発行からレートをやや上げてT/N▲0.09～▲0.08%の出会いとなった。10日は業者のビッド残りが厚く、レートを下げる展開となり、▲0.09%から▲0.13%までの出会いとなった。その後もレートは低下基調を取り、週末の12日には短国の発行などもあったものの、レートは一段と下げて▲0.15～▲0.13%での出会いとなった。

SCについてはビッドが目立った銘柄は5y 133～138、10y 336～354、30y 59～61、40y 11などにビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、海外からの需要が強まったこともあり、週の後半には3M～1Y物で▲0.200%近辺での出会いが見られるなど、全般的に強含みのマーケットとなった。

9日に実施された6M物の入札は、WI取引において▲0.170%で出合う展開となる中、平均落札利回▲0.1713%、按分落札利回▲0.1674%とWI取引を反映して堅調な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、新発6M物が▲0.192～▲0.190%の出会いと強含みで推移した。

11日に実施された短国買入オペは7,500億円がオファーされた。応札額が1兆7,476億円程度と多く、平均落札利回較差+0.015%、按分落札利回較差+0.005%と、引け値の低い銘柄の在庫調整の売りからか、小甘い結果となった。

12日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.205%で出合う展開となる中、平均落札利回▲0.1984%、按分落札利回▲0.1861%と前回債からレートが低下する結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、特段の出会いもなく閑散で、新発3M物が▲0.187%で出合って引けた。

●CP市場

今週のCP市場は、電気機器業態1社の1,000億円超の大型発行を筆頭に、鉄鋼や卸売、ゴム製品等の業態で大型の案件が散見され、週間償還総額5,600億円程度に対し、発行総額1兆600億円程度と発行超の活況なマーケットとなった。3月末に15兆3,000億円程度に急減した市場発行残高は、11日時点で18兆522億円まで回復したものの、1～3月の水準である20兆円台には届いていない。その為、買い手の余力もまだ十分にあるとみられ、大口で複数回発行されている銘柄においても、レートが大幅に上昇する動きは見られず、a-1格は0%付近の狭いレンジで決着している。

9日にはCP等買入オペが1,500億円オファーされた。結果は平均落札レート0.001%、按分落札レート▲0.003%と、前回比（平均▲0.001%、按分▲0.002%）で平均は上昇、按分は低下した。発行残高は回復途中であり、業者は高いレートで積極的に売却するニーズは薄かったと見られ、その中で絶対値が出る銘柄を入替目的で応札したことで、平均レートの上昇、按分レートの低下という結果につながったと考えられる。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
4/8 (月)	21,761.65	△ 0.050	111.45	△ 0.063	△ 0.093	3,896,700
4/9 (火)	21,802.59	△ 0.050	111.35	△ 0.064	△ 0.085	3,899,100
4/10 (水)	21,687.57	△ 0.060	111.17	△ 0.064	△ 0.089	3,880,500
4/11 (木)	21,711.38	△ 0.065	111.07	△ 0.063	△ 0.124	3,885,300
4/12 (金)	21,870.56	△ 0.055	111.75	△ 0.062	△ 0.137	3,883,000

来週（4月15日から4月19日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
4/15 (月)				
4/16 (火)		20Y 9,000億円 4/17発行		3月の米鉱工業生産・設備稼働率
4/17 (水)	3月の貿易統計(財務省 8:50)	交付税借入 10,500億円 4/26借入		米ページブック 2月の米貿易収支 2月の米卸売売上高 3月の英消費者物価指数
4/18 (木)	月例経済報告(内閣府)	TB1Y 19,000億円 4/22発行	流動性供給 6,000億円 4/19発行	2月の米企業在庫 3月の米小売売上高
4/19 (金)	3月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 2月の石油等消費動向統計(経済産業省 13:30)	TB3M 43,000億円 4/22発行	交付税借入 10,500億円 5/7借入	3月の米住宅着工件数 EURO、London祝日(Good Friday)

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
4/15 (月)	▲ 700	74,900	74,200	国債買入 全店共通 CP買入 ETF買入 国債補充	▲ 1,800 ▲ 100 100	10,400 1,900 400	10,900	85,100	年金定時払い TB3M発行▲43000償還37200 2Y発行▲8600 個人向け3・5・10Y発行▲4400 個人向け3・5・10Y償還800
4/16 (火)	0	1,000	1,000				0	1,000	
4/17 (水)	0	▲ 5,000	▲ 5,000				0	▲ 5,000	20Y発行▲9000
4/18 (木)	▲ 1,000	3,000	2,000				0	2,000	
4/19 (金)	▲ 1,000	▲ 3,000	▲ 4,000	被災地支援	▲ 1,300		▲ 1,300	▲ 5,300	流動性供給▲6000 交付税借入▲10500期日10500
週間合計	▲ 2,700	70,900	68,200	—	▲ 3,100	12,700	9,600	77,800	

4/15は日銀予想、4/16以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、17日に20年債の発行要因などによる小幅な資金不足日が予想される一方で、15日に年金定時払いが予定されていることから、週間では大幅な資金余剰となることが見込まれる。無担保コールO/N加重平均レートは低位での推移が続くことが見込まれる。レポ市場は、積み期が変わることで投資家の資金調達が抑制気味になることが予想され、レートは引き続き▲0.10%を下回る水準での引合いが中心になることが予想される。短国市場は、18日に1Y物、19日に3M物の入札が実施予定となっている。堅調な地合いがどこまで継続するか、市場動向が注目される。CP市場は、月後半に入り、10連休越えの資金需要を見据えて発行残高のさらなる拡大が期待される。発行レートについては引続き浅いマイナスから0%近辺の狭いレンジで推移することが予想される。

主要なイベントとしては、国内では19日に3月の全国CPI、海外では17日にページブックが予定されている。

- ◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされまようようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入